

Museum of Human E-Motions

参加アーティストによるワークショップを開催

2019年12月19日(木) 19:00-21:00 / 森下スタジオ(東京都江東区森下 3-5-6) / 参加無料



ソルール・ダラビ(フランス/イラン) 「脆弱性のワークショップ」(日英逐次通訳有)

「存在の状態として脆弱性、生まれた状態として脆弱性があります。私は身体、その生体器官または人工器官、その個人的および集合的な物語の脆弱性を探求しています。なぜ脆弱性を探求するのか、その理由はそれが最大の力であり、すべての限界、すべての恐怖、すべての不可能、すべての規範を超える力だと信じているからです。大きなディルドをアヌスに入れて、遊び、足が震えるのを感じたときの傷つきやすいものの感覚は、初潮を迎えた日を思い出させます。(ソルール・ダラビ)」

【プロフィール】イラン出身のアーティストで、独学でパフォーマンスを学び、パリを拠点に活動する。彼/彼女はフランスへ移住前、イランでコンテンポラリーダンスの普及を試みた地下組織 ICCD の一員として、イランで積極的に活動。2018年、再びモンペリエ・ダンス・フェスティバルで、ムハッラムの追悼の儀式に影響を受け、悲嘆、恐怖、苦しみといった感情への問いを題材に、脆弱性、影響するものそして影響を受けるものへの叙情歌『Savušun』を制作。Météores と共同でプロジェクトの制作、ツアーを行っている。

2019年12月20日(金) 19:00-21:00 / 森下スタジオ(東京都江東区森下 3-5-6) / 参加無料



マサコ・マツシタ(イタリア) 「THINMOBO」(日英逐次通訳有)

「これまでのリサーチを通して開発してきたダンスの実践を共有します。一連のスコアとエクササイズをもとに、参加者はその日の気分や、THINMOBO(THINKing and MOving BOdy)としての個人的な体験に応じてアクティブになる機会を提供します。キーワードとフレーズ: Dancing Museums The Democracy of Being のセッションに続いて、フルクサス運動に意図的に触発されたスコア。アイデンティティ、地理、国境、個人の身体構造の美術館。親密なダンスの転写。見る、見られる。視線を解き、部族のマニフェスト。(マサコ・マツシタ/松下正子)」

【プロフィール】イタリア出身の振付家、ダンサー。2012年、英国のトリニティ・ラバン・コンセルヴァトワール・オブ・ミュージック・アンド・ダンスで BA (Hons) 優等学士学位を取得。イタリアでは、Civitanova Danza, La Quadriennale d'Arte di Roma, Kilowatt Festival 等のフェスティバルに参加、その他、欧州を中心に作品を上演。『UN/DRESS』は2019年の New Italian Dance Platform で紹介され、最新作『MONSONE』は2019年の Prospettiva Danza 賞を受賞した。EUの6ヶ国のアーティスト、ダンスハウスが参加するプロジェクト「Dancing Museum」に参加している。

■ 申込方法: Email または電話でお申し込みください。

Email: residency@saizon.or.jp 電話: 03-3535-5566(受付: 平日 10:00-17:00 財団事務局)

* 件名を、「12月19日ソルール・ダラビのワークショップ申込み」または「12月20日マサコ・マツシタのワークショップ申込み」とし、本文に ①お名前 ②職業 ③参加人数 ④連絡先 ⑤このイベントをどのようにお知りになったかをご記入ください。前日の正午までに以下のメールアドレスにご連絡ください。

ただし、ワークショップの定員は15名で、先着順とさせていただきますのでお早目にお申し込みください。
※ワークショップにご参加いただくためにダンスやパフォーマンスに関する特別な知識は必要ありません。また、年齢制限もございません。

■ 森下スタジオへのアクセス

地下鉄都営新宿線、都営大江戸線「森下駅」A6 出口徒歩 5 分 / 東京メトロ半蔵門線、都営大江戸線「清澄白河駅」A2 出口徒歩 10 分

